

## 2021年からのJDCについて

公益社団法人日本ダンス議会(JDC)

会長 楠 潤一郎

日本ダンス議会(JDC: Japan Dance council)は長年にわたり世界ダンス議会(WDC: World Dance Council)の下部組織としてWDC発展のために尽力して参りました。アジアオープンワールドスーパーシリーズ(世界のプロフェッショナルランキングを決定する大会の一つ)として世界最高峰のブランド競技会に成長させ、アジアツアーをけん引して参りましたが、その功績は世界中のダンス関係者から称賛を浴びるとともに、絶大な信頼を得るに至りました。しかしながら、その伝統あるWDCの運営のあり方に疑問を呈する意見が、多くの著名なダンサー達から沸き起こり、議場で直接抗議を行った会員に対して除名処分を科すなど、正常な組織運営から逸脱してしまいました。前WDC副会長の中川先生(現JDC名誉会長)はその異変にいち早く察知し、副会長を辞職、その後自由で民主的な組織を目指し、2019年2月にWDO(World Dance Organizers)の設立に尽力。幾度となく会議を重ねた後、同5月のブラックプールダンスフェスティバルの開催中にWDO発足式が行われ、世界中のダンス人が出席し新たなダンス界のムーブメントに会場は熱気に包まれ多くの重鎮、著名なコーチ達から歓迎を受けました。WDOはその後ボールルームとラテンのアマチュア世界選手権大会を大成功に導き、2020年12月8日に正式にWorld Dance Organizationに移行致しました。その間、アルナス ビゾーカス元世界ボールルームチャンピオンが中心となり、透明性があり、自由で民主的な組織づくりに奔走する日々が続き、私も理事の一員として何度も会合に出席し、動向を見守ってきましたが、設立に携わる人たちの熱意に驚かされました。結果として、アルナス会長率いるWDOは約90%に及ぶ世界の著名なコーチ達の賛同を経て、華々しく運営がスタートいたしました。そして、JDCは2021年よりWDC傘下を外れ、これからはWDOと共に世界の、また日本のダンス界をけん引していく方向へ舵を切って参ります。WDC傘下から外れるということはNDCJからも外れることとなりますが、JDCとしてはもちろん日本国内においてすべてのプロフェッショナルダンサー達が集結する選手権が開催できることを望んでおり、近い将来に実現できるよう最大限に努力していく所存です。このWDOの理念は「Freedom to Dance」で、どの団体に所属している選手にも出場権利を与えることは勿論、公平で透明性のある組織にしようと頻りにミーティングを重ねております。今後、英国で開催されている3大競技会であります「UK選手権」、「全英選手権(ブラックプール)」、「ロンドンインター」の担当審査員もほとんどがWDOメンバーからの選出となることは言うまでもありません。この様な世界ダンス界の大きなムーブメントをもうだれも止めることは出来ません。JDCは日本国内でいち早くこの流れに乗り、世界における日本ダンス界の立ち位置を盤石にするとともに、日本の選手が世界ファイナリストに、そしていずれ日本人チャンピオン誕生へと後押し出来るような体制を築いていく所存ですので是非、今後のJDCの動向にエールを送っていただければ幸いです。